看護学生の臨床実習に対する意欲調査
（学　校　別，　進　路　別）

池　田　公　子
小　玉　美　智　子

I　ま　え　が　き

看護教育における臨床実習の占める割合が大であることは種々の調査報告からもその言をまたないところである。それにもかかわらず，臨床実習に関する問題は数多く，なお未解決のまま残されているのが現状である。その未解決の問題の1つと思われる実習に対する意欲の問題をとりあげ，学校別ならびに進路別に分析，観察してある程度の成果を得たので報告する。

筆者等はO赤十字病院において臨床指導者として学生の指導にあたっており，同病院では，O赤十字高等看護学院（以下日赤という），国立O療養所附属高等看護学院（以下国療という）および，筆者等が勤務するO県立短期大学看護科（以下短大という）の3校が臨床実習を行なっている。

今回の調査は臨床場において短大の学生は他の2校の学生にくらべて実習意欲に欠けるところがあるのではないかとの推測を立ててみた。それは短大卒業生の，臨床看護より養護教諭（注1）を志す者が圧倒的に多いということが一応の理由であって，それ故に本調査を試みたというわけである。

注　1.　過去2年間の卒業後の進路状況率

表　注1

学校別＼進路別	卒業年度（学生数）	看護婦	進学	看護関係教職	養護教諭	※その他
短大	42年　(54)	37%	15%	5%	35%	9%
	43年　(48)	33%	17%	2%	40%	8%
日赤	42年　(20)	100%	0	0	0	0
	43年　(20)	100%	0	0	0	0
国療	42年　(19)	74%	26%	0	0	0
	43年　(24)	63%	38%	0	0	0

※　その他の項は一般事務，家事，寮母，研究副手等を含む。

II　調査の対象と方法

〔1〕対　　象

対象は現在O赤十字病院で実習している3校の看護学生3年生（68名）について昭和43年5月20日～6月5日の間に行なったものである。

表1　学校別配布数および回収率

	配布数	回収率
短　大	24	73%
日　赤	20	100%
国　療	24	88%

なお，調査票は短大は筆者等が配布，回収にあたり，日赤，国療はそれぞれの教務主任に依頼した。

〔2〕 方　　法

質問紙法は調査票Ⅰ・Ⅱに分け，調査票Ⅰについては主として学生の背景を調査する目的で設定した。すなわち実習病院への通学方法，通学時間，入学前の看護教育に対する認識，将来の進路，講義と実習の関係を選択形式の質問とし，該当項目のない場合は「その他」として自由記述の方法をとった。又調査票Ⅱについては実習意欲についての質問5項目を設定し，各項目に自由に意見が記入出来る欄を設けた。

Ⅲ　背　　景

表2　学校別背景

	設置目的	所管省	修業年限	資　格	免許(選択科目)	通学方法	授業料	1年間の講義時間/実習時間
短大	学校教育法にもとずき有能な看護技術者の養成	文部省 短期大学	3年	◦看護婦国家試験受験資格 ◦保健婦，助産婦養護教諭(一級)養成所受験資格	◦養護教諭二級普通免許状 ◦中学校教諭二級普通免許状（保健）	寮 0 下宿43% 自宅57%	有り	340/576
日赤	赤十字看護婦の養成	厚生省 各種学校	3年	同　上	なし	寮 100%	なし	450/950
国療	看護婦として有能な人材の育成	厚生省 各種学校	3年	同　上	なし	寮 100%	なし	620/974

学校別にみた背景は上記のようであるが，次に調査票Ⅰからみた学生の背景の調査成績は表3，表4のようになった。

① あなたは将来どの方面に進みたいですか。

表3　学校別進路志望率

学校別＼回答項目	看護婦	※1 進学	養護教諭	※2 その他
短　大	3%	17%	69%	11%
日　赤	55%	10%	15%	20%
国　療	57%	29%	0	15%

※ 1.，進学の項は保健婦，助産婦の志望を別々に調査したが，志望者が少ないので一括した。

※ 2. その他は具体的に記入する方法をとったが記入がなく，又解答なしは日赤，国療に各々1名づつあった。これを一括して「その他」とした。

上記のように短大と，日赤，国療では，おのずと進路に差が出ている。また水野による看護学生としての意欲調査の結果においても短大では，「看護学生であることをどう思うか」の問に「嫌いでならない」という解答が5％出ている。（注2）

次に看護教育の内容をどのように考えていたかを調べた。

② あなたが入学前に考えていた看護教育と現実はどうですか。

表4　看護教育に対する感想状況率

学校別＼回答項目	考えていた通りである	大体考えていた通りである	大分考えていたのとは違う	全く違う	回答なし
短大	0	26%	43%	14%	17%
日赤	0	30%	50%	10%	10%
国療	0	43%	48%	5%	5%

「大体考えていた通りである」と稍々肯定的回答が，短大26%，日赤30%，国療43%と国療がやや高い率を占め，又「全く違う」という回答においても，国療が他の2校にくらべ低い率となった。このことは次にのべる実習意欲の調査結果とも考え合せてある程度の影響はあったであろうと考えられるが，これが決定的に実習意欲を低下させる最大の理由であると即断することはできないと考える。

又実習と講義との関係をみると，短大においてはブロック式を取り入れているためほとんど講義が終ってから臨床実習に出ているが，このことは講義終了後そうとうの期間を置いて実習に出るような場合もある。日赤，国療においては，大体講義と実習は平行している。

注 2. 看護教育 VoL.9. №8. P50～51. 医学書院

Ⅳ　調　査　成　績

本文および図表中の百分率は，各回答者数に対する割合であって，学校別，進路別に示す。学校別は，前記と同様に短大，日赤，国療とし，進路別は，看護婦志望を看志，進学志望（主として保健婦，助産婦）を進志，養護教諭志望を養志，「その他」とし以下この略号を用いる。

〔Ⅰ〕 実習意欲について

③ あなたは※月刊専門雑誌を読みますか。

※ 看護学雑誌，看護技術，看護，総合看護，保健婦雑誌，助産婦雑誌，その他

表5－1　学校別読書率

学校別＼回答項目	(イ)全く読まない	(ロ)殆んど読まない	(ハ)必要あれば読む	(ニ)時々読む	(ホ)毎月読む
短大	45%	17%	17%	17%	5%
日赤	15%	5%	50%	20%	10%
国療	0	0	52%	33%	14%

(ホ)毎月読む，(ニ)時々読む，と肯定的回答は国療47%，日赤30%，短大22%となっており又(イ)全く読まない，(ロ)殆んど読まない，と否定的回答をしたものは，短大60%，日赤20%国療0となっている。又(ハ)必要あれば読む，と回答したものは，日赤，国療は50%をしめている。国療の肯定的回答数にくらべ短大の否定的回答数が，それをうわまわる数値をしめした。

表5—2　進路別読書率

進路別＼回答項目	(イ)全く読まない	(ロ)殆んど読まない	(ハ)必要あれば読む	(ニ)時々読む	(ホ)毎月読む
看　　志	4%	4%	46%	29%	17%
進　　志	7%	14%	36%	21%	21%
養　　志	41%	15%	26%	19%	0
そ　の　他	45%	0	27%	27%	0

肯定的回答をしたものは，看志と進志では約45%となっているのにくらべ，養志と「その他」では約20%強と低く，ことに(ホ)毎月読む，と回答したものが，看志，進志では約20%であるのに，養志と「その他」は0となっている。(イ)全く読まない，と否定的回答をしたものは，養志41%，「その他」45%と看志，進志の肯定的回答率に匹敵する回答を得た。

学校別には，短大の学生が，他の2校の学生にくらべて非常に低率をしめしたことは，短大においては学校と実習場が距離的に離れており，又時間的にも実習終了後学校に立ち寄ってもその時間には図書館は閉館しており，又ブロック式となっているため，実習には1週間4日間行なっているので，図書館の利用がきわめて困難であり，その上通学制である。他校の学生は全寮制であり図書館の利用も放課後自由に利用出来るためではないかと考えられる。一方進路別には養志及び「その他」の学生が低率をしめしている。このことは養志は短大が大半を占めている故学校別の考察と同じと考えられ，又「その他」においては概して意欲に欠けているためではないかとも考えられる。

④　実習で自分の学ぼうとしていることが学べますか。

表6—1　学校別学習状況率

学校別＼回答項目	(イ)よく学ぶことが出来る	(ロ)大体学ぶことが出来る	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んど学べない	(ホ)全く学べない
短　　大	5%	46%	46%	3%	0
日　　赤	5%	45%	40%	10%	0
国　　療	5%	48%	48%	0	0

3校とも肯定的回答が50%以上をしめている。(ニ)殆んど学べないと否定的回答をしたものは，日赤10%，短大3%で，(ホ)全く学べない，は3校とも0であった。

表6—2　進路別学習状況率

進路別＼回答項目	(イ)よく学ぶことが出来る	(ロ)大体学ぶことが出来る	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んど学べない	(ホ)全く学べない
看　　志	0	54%	46%	0	0
進　　志	7%	50%	36%	7%	0
養　　志	7%	56%	33%	4%	0
そ　の　他	0	18%	82%	0	0

(イ)よく学ぶことが出来る，(ロ)大体学ぶことが出来る，と肯定的回答が，看志，進志，養志においては55%以上をしめているが，「その他」においては18%と低く，看志と「その他」においては(ロ)大体学ぶことが出来る，(ハ)どちらともいえないの2項で，数値の高低は逆を示している。

学校別には大差は見られないが，進路別には進志，養志の学生はほとんど同じような傾向を示し，看志の学生は，看護教育の基準を高度な所に考えているため，現在の臨床場にはまだまだ指導者の努力を要する面があり，「よく学ぶことが出来る」という項について0を示したのではないかと考えられる。又反面「その他」の学生の場合は意欲不足と考えられ，漫然と一日の実習時間の経過を考えているのではないかとも推測できる。

⑤　実習中に自分の勉強不足を見いだした時追求して勉強していますか。

表7－1　学校別追求意欲率

学校別＼回答項目	(イ)追求している	(ロ)大体追求している	(ハ)することもありしないこともある	(ニ)殆んど追求しない	(ホ)全く追求しない
短　　大	9%	51%	37%	3%	0
日　　赤	5%	50%	45%	0	0
国　　療	33%	24%	43%	0	0

(イ)追求している，(ロ)大体追求している，と肯定的回答したものが，短大60%，日赤55%，国療57%と過半数をしめている。その中でも特に国療は(イ)追求している，が33%と高率で他の2校とは異なる。又短大に(ニ)殆んど追求していない，の3%も他の2校にない数値である。

表7－2　進路別追求意欲率

進路別＼回答項目	(イ)追求している	(ロ)大体追求している	(ハ)することもありしないこともある	(ニ)殆んど追求しない	(ホ)全く追求しない
看　　志	17%	38%	46%	0	0
進　　志	14%	64%	21%	0	0
養　　志	7%	49%	44%	0	0
そ　の　他	27%	9%	55%	9%	0

肯定的回答は，看志は55%，進志は74%，養志は55%，「その他」は46%と全般的に高率を占めているが，「その他」において(イ)追求していると回答したものが，他志望にくらべ27%と高く，又逆に(ニ)殆んど追求していないも9%を示している。

学校別には大体3校とも，肯定的回答率は同じようであり，実習に対しては，勉強不足を自覚した時にはそれを追求，勉強している。しかし，短大においてのみ否定的回答を得た。これは進路別と考え合せて考察する。進路別では看志，進志，養志のものは率の多少はあるが，50%以上のものが肯定している。しかし「追求している」という項は，「その他」の学生が他にくらべて高い。このことは進路がはっきりしないため実習が充実せず，勉強不足を自覚する機会も多くこのような結果が得られたものと考えられる。否定的回答をした学生は，実習に対してなげやりな気持があるのではないかと推測できる。

⑥　実習は興味深く実習できると思いますか。

表8－1　学校別実習興味状況率

学校別＼回答項目	(イ)興味深くできる	(ロ)大体興味深くできる	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んど興味かない	(ホ)全く興味がない
短　　大	5%	40%	37%	9%	9%
日　　赤	5%	40%	35%	20%	0
国　　療	19%	57%	19%	5%	0

肯定的回答は，国療76%，短大，日赤においては45%となっている。㈡殆んど興味がない，㈱全く興味がない，の否定的回答は，日赤が20%で一番高い。しかし短大においてのみ㈱全く興味がない，が9%で他の2校にない数値である。

表8—2　進路別実習興味状況率

進路別＼回答項目	㈠興味深くできる	㈺大体興味深くできる	㈩どちらともいえない	㈡殆んど興味がない	㈱全く興味がない
看　　志	8%	46%	33%	13%	0
進　　志	21%	57%	21%	0	0
養　　志	4%	44%	33%	15%	4%
そ　の　他	9%	27%	36%	9%	18%

肯定的回答は，進志では71%，看志，養志では約50%であるのに，「その他」では35%と低率である。

学校別には，短大，日赤にくらべ国療は非常に興味をもっていることがうかがえる。逆に短大においては全く興味を持たずに実習している学生が相当いる事が判明した。又進路別には，進志の学生は非常に興味深く実習していることがわかると同時に，「その他」の学生は意欲に欠けるためか，興味を持っていない学生が多い。

⑦　3校合同の実習は効果的であると思いますか。

表9—1　学校別合同実習に対する効果判定状況率

学校別＼回答項目	㈠非常に効果的である	㈺効果的である	㈩どちらともいえない	㈡効果的とは思われない	㈱全く効果的でない
短　　大	3%	20%	60%	11%	5%
日　　赤	0	15%	55%	25%	5%
国　　療	10%	14%	38%	33%	6%

㈠非常に効果的である，㈺効果的である，と肯定的回答をしたものは，短大，国療においては20%以上であるのに，日赤においては15%で，そのうち㈠非常に効果的である，は0である。又否定的回答は，国療39%，日赤30%，短大16%である。

表9—2　進路別合同実習に対する効果判定状況率

進路別＼回答項目	㈠非常に効果的である	㈺効果的である	㈩どちらともいえない	㈡効果的とは思われない	㈱全く効果的でない
看　　志	0	13%	46%	33%	8%
進　　志	7%	14%	64%	14%	0
養　　志	4%	22%	52%	15%	7%
そ　の　他	9%	18%	55%	18%	0

㈩どちらともいえない，が全般に50%前後を占めている。看志において，肯定的回答率が13%と低く，逆に否定的回答が41%という高率を占めた。

学校別には大差はないが，進路別には，看志の学生が他の学生にくらべ否定的回答率が高い。これは臨床実習に打ちこむためには，学生数の多いことは，主として自由に受け持ち患者が選択出来ず，又実習項目の減少等にからみあい実習効果が上がらないのではないかと考えられる。

〔Ⅱ〕 **実習方法について**

⑧ 実習中に空白な時間があると思いますか。

表10—1 学校別実習時間の空白感状況率

学校別＼回答項目	(イ) ある	(ロ) 時々ある	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んどない	(ホ) 全くない
短大	11%	37%	14%	29%	9%
日赤	20%	40%	10%	25%	5%
国療	38%	48%	0	14%	0

肯定的回答が，国療86%，日赤60%，短大48%となっており，否定的回答は，短大38%，日赤30%，国療14%となっている。短大は(イ)ある，(ホ)全くない，がだいたい10%ぐらいであり，日赤は(イ)ある，が(ホ)全くない，の4倍である。国療は，(ホ)全くない，は0である。

表10—2 進路別実習時間の空白感状況率

進路別＼回答項目	(イ) ある	(ロ) 時々ある	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んどない	(ホ) 全くない
看志	29%	46%	0	25%	0
進志	21%	43%	7%	29%	0
養志	4%	44%	15%	26%	11%
その他	45%	18%	27%	0	9%

肯定的回答が全般に50%以上を占めており，殊に(イ)ある，という回答が「その他」においては45%，看志，進志においては25%前後，養志においては4%となっている。

学校別にも，進路別にも学生の半数は，肯定的回答をしている。又実習中の空白な時間と思われるものを，実習場と学生側にわけて考えてみると，実習場については，主として重症患者，スタッフナースの欠員，指導ナースの夜勤等があげられると思う。又学生側については，計画の不十分が考えられる。

⑨ 毎日実習は計画的になされていると思いますか。

表11—1 学校別実習計画に対する感想状況率

学校別＼回答項目	(イ)計画的である	(ロ)大体計画的である	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んど計画的でない	(ホ)全く計画的でない
短大	9%	51%	29%	11%	0
日赤	5%	55%	30%	10%	0
国療	5%	43%	33%	14%	5%

(イ)計画的である，(ロ)大体計画的である，と肯定的回答は，短大，日赤は60%，国療は48%で少し低く，否定的回答は国療19%，短大11%，日赤10%となっているが，国療のみ(ホ)全く計画的でない，が5%でている。

表11—2 進路別実習計画に対する感想状況率

進路別＼回答項目	(イ)計画的である	(ロ)大体計画的である	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んど計画的でない	(ホ)全く計画的でない
看志	0	58%	29%	13%	0
進志	7%	57%	36%	0	0

進路別＼回答項目	(イ)計画的である	(ロ)大体計画的である	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んど計画的でない	(ホ)全く計画的でない
養　　志	11%	52%	26%	11%	0
そ　の　他	9%	9%	45%	27%	9%

肯定的回答は，看志，進志，養志においては約60%を占めているが，「その他」においては18%と非常に低く，又(ホ)全く計画的でない，という回答が9%で，他は0となっている。

学校別には，国療が他校にくらべ肯定的回答率が低い。しかし全般的に約半数の学生が計画的に実習はされていると回答している。進路別にみると，「その他」の学生に否定的回答が多く，計画の段階から実習意欲の差が出ており，⑧との関係から「その他」の学生が，他の学生にくらべ非常に実習内容に不備の点があるように考えられる。

⑩　経験項目を実習するにあたって責任を持たされていると思いますか。

表12—1　学校別実習責任に関する解釈状況率

学校別＼回答項目	(イ)常にもたされている	(ロ)大体もたされている	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んどもたされていない	(ホ)全くもたされていない	回答なし
短　　大	9%	60%	23%	5%	0	3%
日　　赤	30%	40%	20%	5%	0	5%
国　　療	5%	52%	33%	5%	0	5%

肯定的回答は，日赤70%，短大69%，国療57%となっているが，特に病院を持っている日赤は(イ)常にもたされている，が30%で，他の2校とは異なっている。

表12—2　進路別実習責任に関する解釈状況率

進路別＼回答項目	(イ)常にもたされている	(ロ)大体もたされている	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んどもたされていない	(ホ)全くもたされていない	回答なし
看　　志	17%	67%	13%	0	0	4%
進　　志	17%	50%	36%	7%	0	0
養　　志	15%	52%	22%	7%	0	4%
そ　の　他	9%	18%	55%	9%	0	9%

肯定的回答が，看志84%，進志57%，養志67%に対し，「その他」では27%と他にくらべて低く，又(ハ)どちらともいえない，が55%を占めた。

学校別では，日赤が「常に持たされている」が圧倒的に多く，国療は肯定的回答が低い。又進路別では，看志の学生に肯定的回答が一番高い。この項に「どちらともいえない」と「回答なし」が多く出ていることは，責任は持ちたいが，あまり責任が重くなると，不安であると考えているのではないかと推測できる。

⑪　実習は責任をもった方が実習効果があがると思いますか。

表13—1　学校別実習責任と効果に関する感想状況率

学校別＼回答項目	(イ)あがる	(ロ)大体あがる	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んどあがらない	(ホ)全くあがらない	回答なし
短　　大	57%	23%	20%	0	0	0
日　　赤	60%	30%	10%	0	0	0
国　　療	33%	33%	24%	0	0	10%

肯定的回答は3校とも高率に出ている。

表13—2　進路別実習責任と効果に関する感想状況率

進路別＼回答項目	(イ)あがる	(ロ)大体あがる	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んどあがらない	(ホ)全くあがらない	回答なし
看　　志	50%	25%	17%	0	0	8%
進　　志	57%	29%	14%	0	0	0
養　　志	59%	19%	22%	0	0	0
そ　の　他	27%	45%	27%	0	0	0

肯定的回答は全般的に約75%という高率を得た。

学校別にも，進路別にも，実習は責任を持ちたいし，又持った方が効果があると半数以上の学生が肯定的回答をしている。

〔Ⅲ〕 **疲労度について**

⑫　実習は肉体的に負担になると思いますか。

表14—1　学校別肉体的疲労感状況率

学校別＼回答項目	(イ)負担にならない	(ロ)殆んど負担にならない	(ハ)どちらともいえない	(ニ)ある程度負担になる	(ホ)負担になる
短　　大	5%	5%	0	43%	52%
日　　赤	5%	5%	5%	55%	30%
国　　療	5%	10%	5%	66%	14%

短大においては，(ホ)負担になる，(ニ)ある程度負担になる，が95%で，否定的回答は5%である。又国療においては，(ホ)負担になるは14%と3校中一番低い。

表14—2　進路別肉体的疲労感状況率

進路別＼回答項目	(イ)負担にならない	(ロ)殆んど負担にならない	(ハ)どちらともいえない	(ニ)ある程度負担になる	(ホ)負担になる
看　　志	0	4%	0	79%	17%
進　　志	7%	14%	7%	29%	43%
養　　志	0	4%	0	48%	48%
そ　の　他	9%	9%	9%	36%	36%

看志，養志の場合は，(ロ)殆んど負担にならない，が4%で残り96%は肯定的回答を得た。進志，「その他」の場合は，(ニ)ある程度負担になる，(ホ)負担になる，が約70%で，否定的回答が約20%前後を占めている。

3校の背景で肉体的影響をおよぼすものを考えると，主として通学方法と実習時間数にあると考えられるが，3校とも肉体的負担は高率である。

⑬　実習は精神的に負担になりますか。

表15—1　学校別実習の精神的負担感状況率

進路別＼回答項目	(イ)負担にならない	(ロ)殆んど負担にならない	(ハ)どちらともいえない	(ニ)ある程度負担になる	(ホ)負担になる
短　　大	0	9%	9%	37%	46%
日　　赤	0	5%	5%	45%	45%
国　　療	0	24%	14%	43%	19%

肯定的回答が，日赤90%，短大83%，国療62%と出ており，(ロ)殆んど負担にならない，の否定的回答は，国療24%，短大９%，日赤５%と出ている。

表15—２　進路別実習の精神的負担感状況率

進路別＼回答項目	(イ)負担にならない	(ロ)殆んど負担にならない	(ハ)どちらともいえない	(ニ)ある程度負担になる	(ホ)負担になる
看　　志	0	17%	4%	50%	29%
進　　志	0	21%	14%	43%	21%
養　　志	0	4%	7%	37%	52%
そ　の　他	0	18%	18%	18%	45%

(ニ)ある程度負担になる，(ホ)負担になる，が養志90%，看志79%，進志64%，「その他」63%である。(ロ)殆んど負担にならない，の否定的回答は，養志において４%で，他は20%前後を占めている。

学校別には日赤に負担感が一番高く，短大と数値は多少違うが同じような傾向にあり，国療は負担感が一番低い。又進路別にみると養志学生に負担感が一番高く出ている。全般的に高率を占めたことは「人間の看護」という点が考えられる。

⑭　学校の要求する実習に関する提出物（個人経験録，症例記録，症例研究，その他）は負担になると思いますか。

表16—１　学校別提出物に関する負担感状況率

学校別＼回答項目	(イ)負担にならない	(ロ)殆んど負担にならない	(ハ)どちらともいえない	(ニ)ある程度負担になる	(ホ)負担になる
短　　大	0	20%	17%	43%	20%
日　　赤	5%	5%	10%	45%	35%
国　　療	5%	19%	19%	29%	29%

(イ)負担にならない，(ロ)殆んど負担にならない，の否定的回答は，国療，短大は約20%であり，日赤は10%である。又肯定的回答は，日赤70%，短大63%，国療58%となっている。

表16—２　進路別提出物に関する負担感状況率

進路別＼回答項目	(イ)負担にならない	(ロ)殆んど負担にならない	(ハ)どちらともいえない	(ニ)ある程度負担になる	(ホ)負担になる
看　　志	4%	4%	17%	46%	29%
進　　志	7%	29%	14%	21%	29%
養　　志	0	11%	26%	44%	19%
そ　の　他	0	18%	9%	36%	36%

肯定的回答は，看志，養志，「その他」においては70%強の学生が，負担を感じている。進志の学生は50%と低く，又逆に否定的回答は36%と他の学生にくらべて高い。

学校により提出物の種類は異なるが，前記のものは，どの学校も提出させている。結果として提出物の種類の多い学校に負担感も高く出ている。進路別にみると，進志の学生に負担感が一番低く出ているのは，実習意欲との関係が非常に深いと考えられる。

⑮　その提出物は実習にあたり勉強になり実力がつくと思いますか。

表17—1　学校別提出物の効果感状況率

学校別＼回答項目	(イ)勉強になり実力がつく	(ロ)大体勉強になり実力がつく	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んど勉強にならないし実力もつかない	(ホ)全く勉強にならないし実力もつかない
短　　大	17%	43%	31%	9%	0
日　　赤	25%	25%	40%	10%	0
国　　療	33%	33%	14%	14%	5%

肯定的回答は，国療66%，短大60%，日赤50%となっている。又否定的回答は，日赤10%，短大９%，国療19%である。

表17—2　進路別提出物の効果感状況率

進路別＼回答項目	(イ)勉強になり実力がつく	(ロ)大体勉強になり実力がつく	(ハ)どちらともいえない	(ニ)殆んど勉強にならないし実力もつかない	(ホ)全く勉強にならないし実力もつかない
看　　志	25%	38%	33%	0	4%
進　　志	29%	50%	14%	7%	0
養　　志	22%	33%	30%	15%	0
そ　の　他	18%	18%	45%	18%	0

肯定的回答が，進志では80%と高率であるのに対し，「その他」では30%と低く，対称的である。又看志，養志では60%前後となっている。否定的回答は，養志，「その他」において15%強を占めた。

学校別には大差はないが，進路別では，実習意欲とも関係し，進志において高率を占め「その他」が低率を占めた。

V　考察および総括

〔Ⅰ〕 実習意欲について

学校別では短大，進路別では「その他」の学生が，実習意欲において否定的回答が多かった。これは，一面では実習意欲に欠けることも考えられるが，他の２校とことなり，短大は選択科目となってはいるが，卒業後の進路が多く，最後まで目的が定まらない学生もこの中に含まれており，表７，８表より，学校別では短大，進路別では「その他」の否定的回答の学生が一致している点からも理解できる。このように，特に意欲に欠けている少数の学生が，短大に所属していると，その校の学生すべてが，意欲にかけると評価されるのではないかと考えられ勝ちである。

本調査の結果では，進路別でも，養護教諭志望学生は，看護婦志望学生，進学志望学生と実習意欲については大差ないことが判明した。しかし，はっきりした目的を持たない「その他」の学生は，他の学生に比較して非常に実習意欲が低い。これを今後の課題として追求してゆきたい。

〔Ⅱ〕 実習方法について

空白な時間は，現状では実習場の状態により計画に差があることから出ているようである。これは，学生の実習計画をたてる能力差も関係しているが，国療は非常に実習意欲があるにもかかわらず「空白な時間がある」と肯定的回答が，高いのは「実習計画」の段階をもあらわしており，この点，臨床指導者は現実を見つめ実習計画を十分把握し，どの学

生にも平等な計画のもとに実習出来るよう配慮したい。

実習と責任については，大半の学生が，責任を持った方が効果があがると回答していた。特に，日赤においては肯定的回答が多く，ほとんど実習病院に就職することから，「先輩，後輩」の関係も強く，このような結果がでているものと思われる。

しかし，明確な回答のない学生の場合，その学生の能力以上であると思われる責任は，非常に負担となり，かえって実習意欲を減退させる結果となっていることを忘れてはならないと思う。それと同時に目的を持たない「その他」の学生については，臨床指導者が，実習中に面接場面を度々持ち，実習計画，実習の責任範囲を把握し，より積極的な実習意欲が持たれるようにしたい。

〔Ⅲ〕 疲労度について

臨床実習は，学生にとって精神的にも，肉体的にも疲労感が高い。1日8時間という実習計画でもって莫大な時間を臨床実習にあてているためであり，この時間に問題があると思われる。

精神的に疲労しやすいのは，看護を「生命のある人間の看護」という観点で把握しようとすることから，実習上での複雑多岐な人間関係の場に直面しているという緊張感のためであると思う。この人間関係については，臨床指導者が，より積極的に理解し協力するよう一層の努力が必要であるし，学生といえども看護者であるという自覚が望まれる。

提出物の負担については，臨床実習時間数の必要時間が明確になり，空白な時間を上手に活用出来るように指導し，臨床実習に関心と興味をもたせ学習的雰囲気を臨床場にもりこむことが出来れば，その負担感を大きく軽減することが出来よう。

以上の調査結果から現在臨床実習は，「卒業後，臨床場にすぐ役立つ看護婦」の養成のため，高度の教育よりむしろ現場の臨床看護を優先し且つ技術中心に傾斜し勝ちであるので，学生は，実習に対する心構えとその受けとめ方を充分に，前もって理解して置かなければならない。

実習場が，教育的雰囲気にとぼしいことから看護婦志望学生は，むしろ実習意欲の満足度が低い。逆にそれを基礎として進学志望学生にとっては，こうした現状でも満足度が，意欲的に高く現われる結果となった。

Ⅵ　結語と反省

以上，筆者等は，O赤十字病院における臨床実習学生について学校別，進路別による意欲調査の結果を得た。

(1) 臨床実習にあたり学校差がみられた。各校の設置目的は看護婦養成であるが，教育方針のちがいが，この結果となったのだろう。進路別にみて卒業後の進路が多いのは，かえって目的を不明確にし実習意欲の低下と結びつき「その他」の学生が問題となった。

(2) 実習にあたり専任臨床指導者が，現状では少なく，臨床場の看護婦が，看護業務の中で「後輩の指導」という理念にもとずき指導しているが，これがかえって指導を中途半端にする結果となっているようだ。

(3) 各実習場の教育設備，特に図書の設備を充実させたい。現状では，病院図書室を有効に利用するよう指導する。

(4) 3校合同実習においては，各教務の連絡を密にし学生の実習意欲にそえるよう一層

の努力が必要である。

このアンケート調査を終るにあたり，自校の学生の回収率の少なかったことを遺感に思うとともに，この点を大いに反省したいと考える。

この稿を終るにあたり調査にご協力下さったO赤十字高等看護学院，国立O療養所附属高等看護学院の教務主任，ならびに3校看護学生諸姉に厚くお礼申しあげ，又終始ご指導，ご校閲下さいました当看護科水野知文主任教授および関係の諸先生に深く謝意を表する次第である。

参 考 文 献

1) 看護教育　VoL.8.　No.6.　医学書院　1967
2) 看護教育　VoL.8.　No.7.　医学書院　1967
3) 看護教育　VoL.9.　No.6.　医学書院　1968
4) 看護教育　VoL.9.　No.9.　医学書院　1968
5) 看護教育　VoL.9.　No.11.　医学書院　1968
6) 看護教育　VoL.9.　No.8.　医学書院　1968
7) 看護教育　VoL.8.　No.12.　医学書院　1967
8) 看護技術　通巻　178号　メヂカルフレンド社　昭和44年1月
9) 柴田明子他　看護学生　医学書院　1964

昭和44年3月31日 出稿